

カラー軟腐病の防除対策

福島県農業試験場病理昆虫部

平成13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

花き—カラー—病虫害防除

分類コード 05—06—23000000

2 担当者

平子喜一・堀越紀夫

3 要旨

軟腐病はカラー栽培において最も重要な難防除病害である。軟腐病菌は球根に潜在感染し、球根は時間の経過とともに軟化・腐敗する。そこで、球根での本病防除を検討した。

- (1) 軟腐病菌に汚染されたカラー球根を、非病原性エルビニア・カルトボーラ水和剤500倍液に60分間浸漬処理した結果、定植23日後の防除価が32.1、定植52日後(収穫期)の防除価が0となった。このことから、非病原性エルビニア・カルトボーラ水和剤は、効果は認められるが低いため、実用化は困難と思われた。
- (2) 強酸性水(pH2.71.)への60分間浸漬処理は、定植23日後の防除価が23、定植52日後(収穫期)の防除価が0となった。このことから、強酸性水は、効果は認められるが低いため、実用化は困難と思われた。
- (3) チオファネートメチル・ストレプトマイシン水和剤(1000倍液)への60分間浸漬処理は、定植23日後の防除価が77、定植52日後(収穫期)の防除価が50となり、効果が認められ、実用性が確認された。
以上のことから、チオファネートメチル・ストレプトマイシン水和剤は、軟腐病防除に実用化が期待される。

4 その他の資料等

なし